

日本語の副詞節における時制辞の機能

有田節子

立命館大学

0 はじめに

節の認定基準と時制

副詞節の時制解釈

1 節の認定基準

1.1 節の認定基準・・・主語

節 (clause) は主語と述語の関係を含むもの

1. [父がロンドンに赴任する]のは確かだ。(節)

2. [早朝に歩く]のは健康にいい。(句) (田窪 1987/2010)

日本語では主語がしばしば省略されるので、主語の有無のみを認定の基準にすることはできない。

3. [φ]ロンドンに赴任する[父]を見送った。(節)

4. [φ]場所を確保することば明らかだ。(節)

主語が現れても、句と見なされるものも見られる。

5. [汗が出る]のは健康にいい。(田窪 1987/2010)

1.2 節の認定基準・・・時制

英語では、主語名詞句は原則として定形節(時制節)に現れる。日本語において時制辞が節の認定基準になりうるのではないか

6. [父がロンドンに赴任した]のは確かだ。

7. ×[早朝に歩いた]のは健康にいい。→この環境にはタ形は出ない。

8. [φ]ロンドンに赴任した[父]を見送った。

9. [φ]場所を確保したことは明らかだ。

10. ×[汗が出た]のは健康にいい。→この環境にはタ形は出ない。

日本語では、時制辞が現れるレベルと動作主格主語が顕在化できるレベルは一致する。

時制辞が現れるレベルのみを節とするか？総称的主語？対象主語？

1.3 節の認定・・・動詞述語の場合

最も狭く認定する・・・1,3,4,6,8,9のみを節とする。

主語は省略されうるし、タ形が現れるとは限らない。係り側の従属部に手がかりを見つけることは難しい。

受け側の主節の述語(「確かだ」「見送った」「明らかだ」)に手がかりがある。

最も広く認定する・・・1~10まですべて節とする。

ゼロ主語に総称的か特定のかの区別をせず、また、動作主格主語と対象主格主語に区別を認めない。

1.4 形容詞の連体用法

日本語では、amod と acl の区別が明確ではない。

「現行の日本語 UD では、形容詞・形状詞が格を伴わずに名詞を修飾する場合に amod のレベルを付与している。」

11. 偉大な力が必要だ。 amod

12. 將軍の偉大な力が必要だ。 acl

11の「力」よりも12の「力」の方がより限定的

13. 偉大な將軍が必要だ。 將軍が偉大だ

13は amod? acl? もし acl ならば、格を伴うかどうかではなく、被修飾名詞(受ける側)の限定性の方が問題ではないのか。

1.4.1 名詞句か名詞節か

「どこかで nsubj(名詞主語) と csubj(節主語)の線引きを行う必要がある。」(浅原 2018)

声-が 思い出さ-れる／野太い 声-が 思い出さ-れる／野太かった 声-が 思い出さ-れる

→nsubj?

部長-の 野太い 声-が 思い出さ-れる／部長-の 野太かった 声-が 思い出さ-れる

→csubj?

1.4.2 属性形容詞・感情形容詞

属性形容詞

面白い 美味しい 珍しい うるさい など

大きい 美しい 詳しい 親しい など

→「美しい絵」の「美しい」は「絵」の属性を表し「絵」の指す対象を限定する。

感情形容詞

悲しい 心強い かわいい きまぐしい など
寒い 楽しい 眠い くすぐりたい など

→「悲しい絵」の「悲しい」は「絵」の属性ではなく、「絵」に対する主体の「感情」を表す。

→その感情を持つ「主体」(経験者)の存在が義務的。

1.4.3 属性形容詞と時制

属性形容詞の非過去形

14. 「野太い声」

15. 「野太い(先生の)声」

属性形容詞が-taをとると特定の誰か／何かがある時期に有していた属性という解釈が義務的になる

16. 「野太かった声」

17. 「偉大だった力」

18. 「偉大だった先生」

主節述語が「聞こえる」であれば非過去形でも特定の誰か・時期の解釈

19. 「野太い声が聞こえる」

1.4.4 感情形容詞

感情形容詞が-taをとると特定の誰かのある時期に抱いた感情という解釈が義務的になる

20. 幸せだった子供時代

21. うれしかったプレゼント

感情形容詞の非過去形は、感情の主体が総称的な解釈の場合と特定のな解釈の場合とがあるが、主体の存在は義務的。

22. 幸せな子供時代

23. うれしいプレゼント

1.4.5 主節述語の叙実性

主節述語が「必要だ」の場合、-taをとれない。【非叙実述語】

24. {偉大な／*偉大だった}力が必要だ／必要だった。

25. 偉大な力が必要だ。

26. 將軍の偉大な力が必要だ。

主節述語「懐かしい」の場合、-taがとれる。【叙実述語】

27. {偉大な／偉大だった}先生が懐かしい／懐かしかった。

主節述語が「過ごす」の場合、-taをとれない。

28. {幸せな／*幸せだった}子供時代を過ごす／過ごした。

主節述語が「思い出す」「思い出される」の場合、-taがとれる。

29. {幸せな／幸せだった}子供時代を思い出す／思い出した。

30. {野太い／野太かった}声がい出される／思い出された。

補足語の修飾部が「時制の対立を含みうるかどうか」は、主節述語の叙実性に依存する面がある。

1.5 節の認定で考慮すること

2. 従属節における時制辞の機能

従属節の時制は、従属節の独立性の高さに関係している。(寺村 1982/1993)

連体修飾節は、副詞節などと比較すると、その主節からの独立性は比較的低い。

2.1 連体修飾節の時制

2.1.1 連体修飾節の述語の語彙の意味と時制

31. 一般的な見解とは {異なる／異なった} 意見を言う。

非動作性述語

32. 海岸に {沿う／沿った} バス道

33. 隣の家に {接する／接した} 塀

34. {*優れる／優れた} 人材を採用する。

非動作性述語

35. 薬を {使う／使った} 実験は評判が悪い。

動作性述語だが動作性がない

2.1.2 被修飾名詞の意味と連体修飾節の時制形式

36. 大学を {移転する／*移転した} 計画がある。

非過去形のみ

37. 市場を {*調査する／調査した} 結果がもうすぐ出る。

過去形のみ

2.1.3 時制形式が固定している被修飾名詞 非過去形に固定 (砂川 1986)

作業、仕事、商売、作用、役割、仕掛け、しくみ、趣味、くせ、性質、風習、習慣、決まり、運命、約束、必要、方法、資格、権利、確率、危険性、見通し、意向、目的、決意、決心、動機、予定、準備、計画、など

過去形に固定 (福原 2010)

(調査した) 結果、(行った) 記憶、(言った) 覚え、(遊んだ) 思い出、(消えた) 跡、(行った) 帰り、(買った) おつり、など。

2.2 副詞節の時制

日本語の時制形態素

-タ (-ta, -da という異形態を代表)

基本形 (動詞文での-uまたは-ru、形容詞文での-i、形容動詞文、名詞文での-da, -dearuを代表させる)

時制からみた日本語の副詞節

38. a. お酒を飲みながら話をした。
b. 雨が降れば試合は中止になるだろう。
c. 大学に進学するために塾に通った。
d. 部屋に入ると、帽子を脱いだ。
e. 帽子をかぶったまま挨拶をした。
f. 読んだら貸してね。
g. 太郎が {立ち上がる / 立ち上がった} と同時に、皆が一斉に文句を言い始めた。
h. 大学に{a. 行くとき/b. 行ったとき}サークル活動に誘われた。
i. {a. 明日休むので/b. 昨日休んだので}今日は遅くまで仕事する。

2.2.1 論理節と状況節

条件、原因理由、譲歩を表す副詞節・・・論理節

目的、様態、付帯状況、そして時を表す節・・・状況節
(前田 2009)

「副詞節が完全時制節かどうか」「状況節か論理節か」という観点から副詞節の時間解釈のメカニズムについて考察する

2.2.2 不完全時制節におけるアスベクト

不完全時制節は、未完成相を標示する-tei(m) (テイル形) が出現しうるかどうか、出現する場合に非テイル形と交替可能かどうかという点でさらに区別される。(★逆接ナガラ、因果タメニ)

2.3 副詞節の時制選択

副詞節の時制形式の選択が発話時ではなく、副詞節の事象時と主節の述語事象との間の先後関係によって決まるように見える。

39. a. 今度会ったときに、ゆっくり話しましょう。
未来時 主節より前→過去形
b. 入試が行われる場所の下見をした。
過去時 主節より後→非過去形

発話時と主節時を包括する概念として「基準時」STを導入する。事象時を τ 、 a が b に時間的に先行することを $a < b$ 、 a と b が同時であることを $a = b$ 、 a が b と同時にまたは先行する関係にあることを $a \leq b$ 、とそれぞれ標示する

時制形態素選択規則

- a. 過去形: $\tau < ST$ b. 非過去形: $\tau \geq ST$

2.3.1 トキ節・ノゾ節 (完全時制節)

40. 大学に{a. 行くとき/b. 行ったとき}サークル活動に誘われた。

41. 仕事を{a. 休むので/b. 休んだので}上司に事情を説明した。

従属節(副詞節)の事象時を τ_s 、基準時を ST_s とし、主節の事象時を τ_m 、基準時を ST_m とする。発話時をUTとする。

トキ節: {a. $ST_s \leq \tau_s$ b. $\tau_s < ST_s$ } 主節: $\tau_m < ST_m (=UT)$

ノゾ節: {a. $ST_s \leq \tau_s$ b. $\tau_s < ST_s$ } 主節: $\tau_m < ST_m (=UT)$

トキ節の a は $\tau_s < UT$ ノテ節の a は $UT \leq \tau_s$
トキ節の b は $\tau_s < UT$ ノテ節の b は $\tau_s < UT$

トキ節の時制選択は、常に主節時が基準になるのに対し、ノテ節の時制選択は、原則として、発話時が基準になる。

2.3.2 文の階層構造と時制 (吉本 1993)

南(1974)の4分類:従属節をその節に含まれる文法的要素によって4つの階層 (A, B, C, D) に分類する提案。

A類の副詞節: ヴォイス要素は現れるのだが 否定や過去を表す述語要素が現れず、また、目的語名詞句や状態・程度副詞は現れるのだが主語名詞句や時・場所の修飾語のような非述語部分の要素は(主節とは独立には)現れない

B類の副詞節: A類には現れない否定要素や動作主語名詞句などが現れる一方で、意志形・推量形のようなモダリティ要素や主題名詞句・陳述副詞などが現れない

C類の副詞節: モダリティ要素や主題名詞句、陳述副詞が現れる一方で、呼びかけや終助詞のような要素は現れない。

吉本(1993)

絶対テンス、すなわち発話時を基準としたテンスはC類に属し、相対テンス、すなわち主節時を基準としたテンスはB類に属す。

トキ節とノテ節の時制形態素の解釈の違いは、トキ節がB類に属し、ノテ節がC類に属することによるものと捉えることができる。

トキ節がタ形をとる場合は常にトキ節の事象時が主節時よりも先行していることを表し、基本形をとる場合には主節時と同時に後続していることを表す

2.3.3 状況節か論理節か

B類の副詞節でも主節時とは独立に解釈される場合がある

42. 仕事を { 休んでいれば/休んでいたら} 上司に {報告する/報告した} き。

43. 仕事を休んでいても、上司には {報告しない/報告しなかった} よ。

上記の条件節・譲歩節の事態は、主節時と発話時の時間関係に関わらず、発話時よりも以前の解釈になる。

B類とC類の違いというだけでは、トキ節とノテ節の時制解釈の違いは捉えられない。

副詞節が状況を表すか論理的な関係を表すかに依るところが大きい。

2.3.4 完全時制節の論理節

ノテ・カラ・ノダカラ・ノナラ など

主節の事象時が未来であっても、また認識的・根源的いずれのモダリティであっても、そのタ形述語は事象時が発話時以前の解釈になり、基本形述語は、発話時と同時にまたは以後の解釈になる。

完全時制節の論理節の時制選択の基準時は発話時である。

44. a. 半分終わった {ので/から/のだから/のなら}、明日にはすべて終わります。

b. 半分終わった {ので/から/のだから/のなら}、明日にはすべて終わるはずだ。

c. 半分終わった {ので/から/のだから/のなら}、止めて下さい。

$\tau_s (< UT) < \tau_m$

45. a. 仕事を休む {ので/から}、上司に事情を説明した。

b. 仕事を休む {のだから/のなら} 上司に事情を説明したはずだ。

c. 仕事を休む {ので/から}、上司に事情を説明しないといけなかった。

(cf.あまりにひどいことを言うので、深く傷ついた。)

$\tau_m (< UT) < \tau_s$

2.3.5 完全時制節の状況節

状況節を代表させて時間節をとりあげる。

時間節は、主節に表される事象が成立する時間を限定する。

主節事象の時間そのものを限定する時間節の時制形態素の時間解釈が、主節の事象時に依存する。

46. 大学に{a. 行くとき/b. 行ったとき}サークル活動に誘われた。

47. 大学に{a. 行くとき/b. 行ったとき}、部屋に寄る。

48. その問題が解けた時、彼の偉大さがわかるだろう。

49. 半分終わった時、止めて下さい。

$\tau_m < \tau_s (< UT) / \tau_s < \tau_m (< UT)$

($UT <$) $\tau_m < \tau_s / (UT <) \tau_s < \tau_m$

2.3.6 不完全時制節の状況節

アト

主節の事象が従属節の事象に後続するような時間関係を表す節形式である。必ず従属事象が主節事象に先行しなければならず、同時であってはならないので、結果、状態述語がアト節にあらわれることはない。

語彙的テンス情報： $\tau_s < \tau_m$

時制形態素はタ形に固定

アエ

従属節事象が主節事象に後続する時間関係を表す節形式である。同時であってはならないので、結果、状態述語がアエ節にあらわれることはない。

語彙的テンス情報： $\tau_m < \tau_s$

非過去形に固定

アト節、アエ節は、主節の事象時を介して時間解釈されるので、主節の事象時が発話時以前であれば、アト節、アエ節の事象も発話時以前の解釈になり、主節の事象時が発話時以後であれば、アト節、アエ節の事象も発話時以後の解釈となる。

50. 山田くんの家に寄ったあと、{a. 帰宅する/b. 帰宅した}。

51. 家を出る前に {a.病院に寄る/b. 宅配便の荷物を受け取った}。

2.3.7 不完全時制節の論理節

ト節

ト節は基本形に固定されているが、それが動態述語をとる場合、常に $\tau_s < \tau_m$ の解釈になり、アエ節とは逆の時間的先後関係となる。

状態述語や述語の状態形をとって主節と同時関係も表す。 $(\tau_s = \tau_m)$

主節の事象時と発話時の先後関係に関わらず、ト節の事象時が発話時以前に解釈される場合がある。 $(\tau_s \leq \text{UT} \ \tau_m)$

ト節の時制形態素は固定的だが、ト節と主節との時間関係は必ずしも固定していない。

52. a. 花子に話すと、(きっと) 楽になる。 $(\text{UT} < \tau_s < \tau_m)$

b. 花子に話すと、楽になった。 $\tau_s < \tau_m < \text{UT}$

c. ここに花があると、華やかなのだが。 $\tau_s = \tau_m (= \text{UT})$

d. 暗いところで本を読んでいると、目が悪くなるよ。

$\tau_s (= \text{UT}) < \tau_m$

e. 誰か前もって行っていると、助かるのだが。

$\tau_s (< \text{UT}) = \tau_m$

タラ節：

時制形態素はタ形に固定

動態述語の場合には、タラ節の事象時が主節の事象時に先行する関係を表す。 $(\tau_s < \tau_m)$

状態述語や述語の状態形をとって主節と同時関係も表す。 $(\tau_s = \tau_m)$

主節の事象時と発話時の先後関係に関わらず、タラ節の事象時が発話時以前に解釈される場合がある。 $\tau_s (< \text{UT}) < \tau_m$

主節のモダリティによっては、主節の事象時の方がタラ節の事象時に先行するような関係も表しうる。 $\text{UT} < \tau_m < \tau_s$

53. a. この坂を越えたら、あの人が待っている。 $(\text{UT} >) \tau_s < \tau_m$

b. 窓を開けたら、冷たい空気が入ってきた。 $\tau_s < \tau_m (< \text{UT})$

c. 寒かったら、エアコンつけていいよ。

d. 半分終わっていたら、止めてください。 $\tau_s < \text{UT} < \tau_m$

e. 中山日出子が突然会社を辞めたら、それは却って、噂を認めたことになる。(赤川次郎『本日(は)悲劇(なり)』BCCWI)

$\text{UT} < \tau_m < \tau_s$

→なぜタ形？

$(\text{UT} >) \tau_m < \tau_s < \text{ST}_s$

条件節が導入した基準時

2.4 論理節と状況節

論理節と状況節の違いは完全時制節だけでなく不完全時制節(B類の副詞節)にも認められる。

ノデとトキの時間解釈の違いは、C類かB類か、ではなく、論理節か状況節(時間節)かの違いとして捉えるべきである。

論理節と状況節の区別

状況節・・・完全時制節も不完全時制節も時制解釈は主節の基準時に依存する。

論理節・・・完全時制節の時制解釈は発話時が基準となる。不完全時制節の時間解釈が必ずしも主節基準になるわけではない。

条件文は、条件節によって導入される基準時に主節の時制解釈も依存する。

3 まとめ

時制形態素は日本語の節の認定の基準の1つである。

連体修飾節の時制形態素の出現は、主節の述語に依存する面と被修飾名詞の意味に依存する面がある。

副詞節の時制解釈基準は、副詞節の意味（論理節か状況節か）による。

参考文献

- 浅原正幸(2018)「Universal Dependencies プロジェクトと日本語チームの活動」国立国語研究所
- 有田節子(2007)『日本語条件文と時制節性』くろしお出版
- 有田節子(2012)「複文研究の一視点—時制とモダリティの接点としての既定性—」『日本語文法』12-2, 43-64.
- 有田節子(?)「時制形式の有無と副詞節のタイプ」(印刷待ち)
- 金山・宮尾・田中・森・浅原・植松(2015)「日本語 Universal Dependencies の試案」NLP15. 砂川有里子 (1986) 『日本語文法セルフマスタースeries 2 する・した・している』くろしお出版
- 田窪行則(1987)「統語構造と文脈情報」『日本語の構造』(2010)に所収。くろしお出版
- 寺村秀夫 (1982a) 「テンス・アスペクトのコトの側面とムードの側面」, 『寺村秀夫論文集 I』(1993) 所収. くろしお出版, 東京.
- 福原香織 (2010) 「日本語の時制：その形式と解釈のプロセス」博士論文 大阪大学
- 前田直子(2009)『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究—』くろしお出版
- 南不二男(1974)『現代日本語の構造』大修館書店
- 中村ちどり(2001) 『日本語の時間表現』くろしお出版
- 吉本啓(1993)「日本語の文階層構造と主題・焦点・時制」『言語研究』103, 141-166.